

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

競争力のあるところが生き残る 寺師 茂樹 (トヨタ自動車副社長)

1. トヨタ自動車で一連のアライアンスや電動化戦略を進めてきた司令塔が寺師茂樹副社長だ。トヨタの今年のキーワードは「スピードとオープン」です。オープンはアライアンスで、比較的わかりやすい。課題はスピードだ。ほっといたら自分の部門の技術ばかり大事にする。重要なことは、世の中に新しい技術を出すというゴールに早く行くために、何を優先し、何を我慢するかだ。
2. われわれが目指すモビリティ社会に向けてライバルとも一緒にやれることはある。ライバルといっさい話をしないという昔の考え方では、スピードアップしていく今の時代はとて難しい。ということは、グーグルやアップル、フェイスブックとも、一緒になれることがあったら、それはやる。彼らは車を造るところまでは入ってこない。
3. トヨタが今後も生存するために必要な条件とは何か、と問われれば、「大きいことと強いこととは違う。競争力のあるところが、生き残る」と思う。強さの指標はいろいろあるが、大きいゆえに動きが鈍い。足元では異業種によるイノベーションが起こっており、従来の延長線上に答えはないかもしれないという危機感がある。自分たちのやってきたビジネスがこのままでいけるとは思っておらず、それが豊田社長の「生きるか死ぬか」という言葉になった。生まれ変わらないと明日はない。

(参考:「週刊東洋経済」2018年3月10日号)

経営者のための理念・哲学

いい絵は無我夢中から生まれる

田淵 俊夫 (画家・日本美術院理事長)

1. 自分自身を追い込んでいかななくてはいい絵はできません。私は 20 代から絵を描いていますから、何かの弾みに 40~50 年前の絵が出てくることがあります。その絵を見ると「えっ、こんないい絵を描いていたんだ」と驚くことがあります。その頃は、もう無我夢中というのか、無心でただひたすらに描いている。そんな絵は新鮮で、いま見ても一つも古くないのです。
2. 本当なら、いまのほうは技術的には上達しているはずなのに、「これは何なのだろう」と自分でも思います。「俺は絵がうまくなった」「有名になったから、下手な作品は後輩に見せられない」という思いが少しでもあると、納得できる絵は生まれません。無我夢中で絵筆を走らせていたかつての感覚を取り戻すことが大切です。

(参考:「致知」:2018年4月号)

人事・労務について

銀行出身者の転職 様変わり

1. 銀行の人材の動きに変化が表れているのは新卒市場だけではない。中途でも新しい潮流が目立つようになってきている。銀行出身者の転職が増え始めた 2014 年度上期には「職を替える」といっても半数は金融業界内での転職だった。ところが 2017 年度上期になると業界内の転籍は 29% まで減る。
2. 代わりに増えているがコンサルティング業界、人材・教育業界などに転じる銀行員。このほか M&A (合併・買収) のアドバイザー業務を経験している銀行員なら、商社の投資部門などから引き合いがある。中途採用を進める他業界の企業では、募集時に「銀行出身者が欲しい」と条件を定めるケースも増えている。銀行員の能力が、産業界から一定の評価を得ているのは変わらない。

(参考:「日経ビジネス」2018年3月5日号)

古典に学ぶ

物質的科学的教育はない (明治維新当時)

(解説) 私は維新後、間もなく大蔵省の役人となったが、この当時の日本には物質的科学的教員はほとんどないといってもよいくらいであった。武士的教育には程々高尚なものがあったが、農工商にはほとんど学問はなかった。のみならず、普通の教育のことも論じても低級で、多くは政治教育という風であった。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」) 国書刊行会